



はい！げんきです。

南帷子小学校長 堀田 誠

朝のルーティンは、登校の様子を見届けた後、2→4→3→5→6→特別支援→1と各クラスの様子をみて回ります。朝の会の健康観察が各クラスで行われ、係の児童が一人一人の名前を呼びます。

「〇〇 〇〇さん」と名前を呼びあげられると、呼ばれた児童は「はい！げんきです」と応えます。この声が4月の頃より大きくなってきました。また、元気な声を聞くと、ホッとします。

朝の登校時には、生活委員の児童がいつも児童玄関の前であいさつ運動を行っています。5、6年生が中心ですが、「おはようございます」と先がけ挨拶を行っています。そのおかげか、最近、挨拶の声が大きくなってきたように感じます。1年生のある児童は「校長先生おはようございます」といつも名前をつけて挨拶をしてくれます。名前を呼ばれると何か温かさを感じます。また、その子の心の温かさが伝わってきます。「今日も一日がんばろう」と思える瞬間です。とてもありがたいです。南帷子小の「大切にしたいあ・い・う・え・お」の「あ：あいさつ」をみんなで高めていこうとしています。きっと、一人一人の児童は、朝起きて、学校に来て教室に入るまでに、多くの人から「おはようございます」という挨拶を交わしたことでしょう。家族の人、分団のお友達、分団のお世話をする大人、近所の人、交通当番の人、そして学校の先生、クラスのお友達…。多くの方々の声によって一日が始まるのかもしれない。

さて、各クラスでQ-U検査を実施している最中です。これは、学校生活における困り感などを早期に発見し、そして早い段階で教育相談をもつことができるようにするための検査です。可児市は、およそ10年前からすべての小中学校の児童生徒に実施しています。困り感には様々な要素があります。友達関係、家族関係、先生との関係、学習の行き詰まりなどがあります。4月に環境も変わり、緊張感の中でスタートしました。多くの児童は、その環境にもなれて元気よく学校生活を送っていますが、人との関わりが苦手だったり、環境の変化に上手く順応できなかつたりして、困っている子も必ずいます。その困り感が表面化してくるのがGW後、そしてジメジメした天候が多い6月と言われます。そんな困り感をもった児童は、悩みをもったまま、幾度となく「がんばろう」と自分を励ましながら、悩みを抱えています。そのような子の「心のつかえ」を少しでも和らげたいという思いから、担任から声掛けをさせていただきます。また、保護者の皆さんとも連携をとっていきたいと思います。

保護者、地域の方々、そして学校の共通の願いは、いつも、「はい！げんきです。」という子どもの声だと思っています。



ラベンダーが咲いています